

- 管内 檜山管内
分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
取組のポイント

- 海洋実習中の災害発生時における危機回避能力の育成
 水中緊急警報装置を使用し、潜水者を安全に避難させる防災避難訓練を実施
 緊急時の浮上及び避難の方法や関係機関への連絡方法等の共通理解

取組の実際

ねらい

- 地震・津波を想定した緊急警報装置の活用による緊急時の対応方法を理解する。
 危機的状況の際に適切に行動しようとする意識の向上を図る。

内容

1 事前指導

- 教室における事前指導
 - ・バディシステムの重要性について学ぶ。
 - ・緊急浮上の合図（ハンドシグナル）を確認する。
 - ・スライドでの説明により、避難の流れなどのイメージをもつ。 プールにおける事前指導
 - ・緊急警報装置の操作手順、鳴動を確認する。
 - ・水中での聞こえ方を確認する。
 - ・ウェットスーツ、ブーツ着用時の動きにくさを確認する。
 - ・避難時の留意点について確認する。



【水中警報装置】

2 地震・津波を想定した海洋における避難訓練

- 事前準備
 - ・教員、実習指導担当者の役割分担を確認する。
 - ・関係機関への連絡方法等を確認する。
 - ・緊急警報装置を設置する。（水深2m）
 - ・負傷者搬送用担架を準備する。
 - ・緊急時の情報収集用ラジオを準備する。 海中のダイバーへ地震発生を周知
 - ・緊急警報装置を鳴動させる。
 - ・インストラクターの合図により緊急浮上する。
 - ・浮上するときの速度に注意する。 海中からの避難に要する時間や方法を確認
 - ・活動中の浜から避難路まで避難する。
 - ・タンク等潜水器材は海面に放置する。
 - ・負傷者がいる場合の搬送訓練を実施する。



【水中からの緊急浮上（訓練）】



【負傷者の搬送（訓練）】

成果と課題

- 避難訓練の実施により、日常とは異なる、水中でのコミュニケーションの難しさや、ウェットスーツを着た状態での避難時の動きにくさを体感し、スクーバダイビング活動における危機管理意識を高めることができた。
 安全に高台に避難するため、地域住民と連携協力し、避難路の環境整備を進める必要がある。